

## 活動報告書

報告者氏名：岡本 崇

所属：大分県立大分支援学校

記録日 2014年 2月 3日

### 【対象児の情報】

○学年 中学部 2年生 男子生徒

○障害名 知的障害

### ○障害と困難の状況

- ・日常的な会話などはほとんど理解できるが、内容が複雑になったり複数のことを一度に言われたりすると理解が難しい。また、複雑な内容や順序性のある内容では、言葉で表現することが難しい。
- ・初めての事柄や経験の少ない事柄に直面すると、不安を訴えることが多い。
- ・口頭で伝えられた事柄については、時間がたつと内容があやふやになったり、忘れてしまったりすることが多かった。その結果、忘れ物や連絡事項の誤認が多くなっていた。
- ・アナフィラキシーショックを有する食物アレルギーがある。アレルゲンの食材自体は理解しているが、調理済みのものや市販の食品に含有しているかを判断することは難しい。
- ・ショック時に対応するためのアドレナリン自己注射（以下エピペン）を所持・管理している。
- ・今年度より、毎日の自転車での通学を開始した。場面や状況に応じた安全への対応が難しい。

### 【活動目的】

#### ○当初のねらい

～生活に関わる情報を自分で整理し、正しく理解することをねらいに～

対象児には、上記のように様々な直面する困難がある。それらはすべて本人にとっては経験のない事象であり、不安を訴えることが多かった。しかし、すべてが生活に直面するものであり、早急に対応を要していた。さらに将来的にも自己管理できることが望ましい。本児はこれまでの傾向から、一旦理解し、正しく自己管理できるようになりさえすれば、自信を持って行動することができていた。そこで、困難な事象に対してそれぞれ対応することとした。さらに、それらの対応は写真などでデータ化し、すべて本人が一括管理できるようにしたいと考えた。

○実施期間 平成25年4月～平成26年3月（予定）

○実施者 岡本 崇

○実施者と対象児の関係 担任

### 【活動内容と対象児の変化】

#### ○対象児の事前の状況

- ・今年度よりエピペンを所持・管理している。初めての経験であり、注射の実施について練習ができない状況のため、適切な使用ができるか本人及び保護者も不安を覚えていた。（写真は本人制作の動画マニュアルより）
- ・給食では、アレルギー対応食は個別に配膳される。また、献立も個別に代替食を明記するようになっている。本校内規でアレルギー対応食の最終確認は教員が複数で行うが、意識を持たせるため事前の確認は自分で行うようにした。（写真は本校の動画データベースより）
- ・自転車通学では、開始当初は過剰なほどに左右の安全確認を行っていたが、後方など一定方向の確認を忘れ、危険な場面が多かった。また、



回数を経過するにつれて、次第に安全確認自体が簡略化された。

### ○活動の具体的内容

将来にわたって継続使用することを見据え、より一般的でシンプルなアプリを選択した。

#### ① 情報の管理について

- ・すべての情報の管理→「Evernote」で一括管理する
- ・会話内の複雑な内容の理解→「Evernote」で音声メモをとり、繰り返し聞く

#### ② アレルギーについて

- ・アレルゲン含有食品を調べる→「アレルギーチェッカー」
- ・エピペンの管理（保健室への持ち運び管理）→「Evernote」（リマインダー機能使用）
- ・エピペンの使い方の動画マニュアル作成→「カメラ」及び「imovie」
- ・対応除去食のチェック→「Evernote Food」で写真及び記録をとる
- ・対応除去食のこんだて確認→給食のこんだて表に「Sketch」で書き込み、除去食のチェックをする（上記の二つは、Evernote と連携して一括で管理することができるというよさがあるため採用）

#### ③ 自転車通学について

- ・危険個所を写真撮影→「Evernote」（写真を撮影してノートで保存）
- ・走行中の様子を動画で再確認→プリインストールされている動画プレーヤー

#### ④ 伝えたいことを適切に相手に伝える

複雑で順序性のある内容を伝える→「Keynote」で本人が写真や動画を貼ったスライドを作り、順番に沿って説明する



Evernote（無料）  
※プレミアム会員3900円



アレルギーチェッカー  
（無料）



EvernoteFood  
（無料）



Sketch  
（無料）



imovie  
（450円）

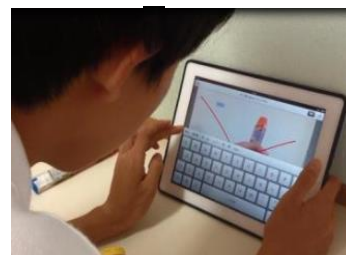


Keynote  
（850円）

### ○対象児の事後の変化

#### ① 情報の管理について

- ・取り組み開始当初は、なかなか Evernote での一括管理という概念が理解できない様子だったが、1週間ほど継続すると、必要な情報はすべて Evernote を開けば記録されているということが理解できた。
- ・当初はアレルギーに関する事柄のみを管理していたが、次第に自分から「日課表」や「宿題」「覚えておくこと」など、学校生活でのすべての事柄について Evernote で管理するようになった。
- ・担任以外の教師から口頭で何かを伝えられるような場面でも、Evernote を開いて音声記録をとり、それを聞き返して理解するようになった。



様々な情報を一括管理したノート

## ② アレルギーについて

- ・給食など、食事の記録を取ることの必要性を理解し、毎回忘れることなく記録するようになった。
- ・アレルギー食材を「アレルギーチェッカー」で逐一調べ、確認することで、自分のアレルギーの状態を意識するようになった。
- ・自分で構成を考えて、エピペンの使い方を動画で撮影し、マニュアルを作った。繰り返し見ながら練習したことで、有事の際の不安が軽減されたようである。また、友だちや教師にエピペンの事を尋ねられた場合も、マニュアルの動画を見せながら適切に説明できるようになった。
- ・毎日リマインダーで確認することで、忘れることなく確実に保健室にエピペンを持って行き、持ち帰ることができた。途中からリマインダー機能を使わず、別のタイマーアプリを使うようになったが、管理はきちんとできている。
- ・取り組みの開始当初は、給食の記録のみだったが、次第にすべての食事を記録するようになった。



アレルギーチェックをする様子



給食の記録を取る様子

## ③ 自転車通学について

- ・自分で危険個所の写真を撮影することで、危険な状況の意識が高まった。
- ・客観的に自分の自転車通学の様子を動画で見ることで、安全確認の必要性や、急停止の危険性を理解することができた。また、一旦理解した事柄は次回からきちんと守ることができていた。



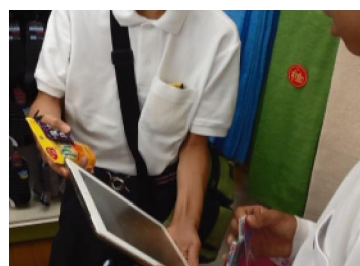
教師が撮影した動画より



本人が撮影した危険個所の例

## ④ 伝えたいことを適切に相手に伝える

- ・順番や内容がわかりやすいように、自分で撮影した写真や編集した動画を紙芝居の要領で keynote のスライドにし、それを自分で見たり、相手に見せたりしながら伝えるようになった。
- ・さまざまな場面で写真を撮影し、それを配列しなおすことで、自分自身で一旦内容を整理するようになった



Keynote で友だちに伝える



様々な場面を撮影する様子

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

#### 理解の面からの気づき

- ・複数の事柄を処理することが苦手な生徒にとって、一括管理できる Evernote は理解しやすかった。

- 学校での必要な情報がすべて **Evernote** だけで管理できるということがシンプルであったために、「これさえ見ればいい」という安心感につながったようだった。
- 実践を開始した当初、**Evernote** のタグ機能を使って情報を種類別に分類する仕方を指導していたが、本人は、日にちや並び順などで検索する方が適していると判断し、以降、その仕方を行っていた。直近の情報は、すぐに検索することができたものの、過去に蓄積していた情報を必要に応じて検索するのは、多少時間がかかった。しかし、本人の希望から、そのままの仕方を継続している。また、リマインダーで必要なことを思い出す仕方を指導しており、生徒もその機能を使っていたが、途中からそれも使わなくなり、タイマーアプリの方を自分で選択して使っていた。無理に多くの機能に対応するよりも、自分にとって使いやすい仕方を模索して実行することの方が価値が高いと判断した。
- 自転車通学の様子などを中心にビデオ教材や動画マニュアルを作っていたが、本人の視点から撮影した「主観的視点」の動画が理解に有効であった。一方、場合によっては本人を客観的に撮影した「客観的視点」の方が有効な場面もあった。今後、条件を整理したい。
- **Keynote** は、相手に自分の考えなどを伝えるためのツールとして導入したが、自分の考えをまとめる場面（例えば、複数の活動をする際の順番の計画・立案など）で使うようになった。写真を並べ替えるなどして、順番を決めていた。生徒本人が考えた使い方として、それ自体は有効であったと言える。

#### 関わりの面からの気づき

- 将来的なアプリの管理の一助として、アプリの用途や使いやすさなどをまとめた「アプリレビュー」をつける指導を行っていた。自分にとって有用なアプリを見極めるために非常に有効であった。また、友だちに「アプリを教えてほしい」と尋ねられるなど、教師が予測しない形で友だちとの関わりが広がっていった。
- **iPad** を通じて、これまで関わりのなかった教員や他学部の子に自分から声をかけるようになった。



アプリレビューを介して関わる様子

- **Keynote** は、当初は教師との対話での利用を想定していたが、むしろ、生徒同士での対話の中での利用が有効であった。スライドを配列する段階で自分自身が伝えるべきことの整理ができることに加えて、複雑なことを写真や動画で伝えられることから、相手も理解しやすかったと思われる。
- 場面によっては、むしろ **iPad (Keynote)** を使わず、口頭で伝えようとする場面が増えた。相手に伝えることができる経験を多く積んだことで、自信を持ったことがよい結果につながったと考える。

#### 生活の面からの気づき

- はじめは様々なアプリをインストールして使っていたが、繰り返し用いられ、有用であると考えられるアプリは限られていることに気づいた。それらに共通するのは「シンプルな機能」「操作性が良い」「世間で広く使われている」という点であった。（この点については、別紙で報告する）

#### ○気づきに関するエビデンス

- **Evernote** で持ち物の管理をすることで、忘れ物の件数が急激に減少した。特に、それまで忘れ物をする割合の高かった、単発的な持ち物（明日の作業学習で使う軍手を持ってくる等）については、3学期段階では皆無であった。
- 宿題や持ち物、日程など、学校で伝えられたことがきちんと理解できていない場合、家庭でパニックになることが多かったが、**Evernote** で見直すことでパニックになることがなくなった。
- **Evernote** におけるタグやリマインダーなど、当初指導していた機能は途中から使わなくなったもの

の、そのことで成功率が下がることはなく、むしろ上がっていた。(忘れ物が皆無になるなど)

- ・昨年度までは休み時間には一人で過ごすことが多かったが、アプリの紹介を通じて仲良くなった複数の友だちと、昼休みに毎日談笑するようになった。

#### 【今後の見通し】

- ・一括管理の有効性に関しては、自分に関わる情報が、いつでも iPad (Evernote) を開けば見ることができるという安心感につながっている。他方で、「なんでも」ということは、情報過多の状況に陥ることも予想される。情報の取捨選択や、不要な情報・期限切れの情報などの削除など、情報を整理する方法についても確立していく必要がある。
- ・「わかる」体験がそのまま自信につながり、不安感を払拭したり、パニック状態を軽減したりすることに有効であった。さらに理解が進むようにしていきたい。
- ・初めての事や、経験の少ないことに対する不安感は、類似の経験を蓄積していくことで次第に減少していくと考えられる。そのためにも、情報の管理は知識の蓄積としても必要であると考えられる。他方で、確実な自信へと繋げるためには、より多くの実体験を伴うことが重要であるとも考える。なるべく校外での体験を多く積めるようにしていきたい。
- ・将来までのことを見据えた場合、長く利用できるアプリの条件は「世間で広く使われている」普及率の高いアプリであると考えている。その点、Evernote や Keynote は非常に多く使われている。特に Keynote は教員の中にも愛用者が多く、今後指導を継続していくことも容易であると考えられる。引き続き、これらを用いて指導を行っていきたい。反面、自分の考えていることを相手に伝えるにはよいツールであるが、実践途中で生徒本人が行ったような、考えをまとめるためのツールとしては、やや操作が煩雑になってしまうようだった。例えば、マインドマップ系のアプリを使うなどしてよりシンプルにできないかを検討したい。
- ・アレルギーに関わることなど、直接生命に影響するため、現状ではすべての管理を本人に任せることはできない(本校の内規でも、教員が給食の最終確認を行うことと定められている)。しかし、将来の社会生活のことを考えると、できるだけ自分で管理できるようになることが望ましい。将来につなげるためにも指導を継続していきたい。保護者や養護教諭、担当医師との連携を続けていきたい。
- ・アレルギーチェッカーを使ったチェックなどは、校内よりも校外に出たときに必要とされる。今後は、校外学習の機会などを通じて、積極的に校外での活用を進めていきたい。また、家庭とも連携して、さらに学校外での活用を増やしていきたい。
- ・動画を使った教材や動画マニュアル作りなどで、どのような場面で「主観的視点」「客観的視点」それぞれのメリットがあるのかを整理し、より理解が進む教材の製作を目指したい。
- ・現在、本校では、授業の様子を撮影したり動画教材を作成したりして、それをアーカイブする「動画データベース」作りに取り組んでいる。それを有効に授業に活用できる仕組みを整理していきたい。